

## 平成28年度事務事業評価シート（平成27年度決算）

事業コード	1810 - 1 -	作成者氏名	中原 権司	連絡先	0833-74-5601
事務事業名	消防団管理運営事業		担当課	消防本部総務課	
予算費目	一般会計	款 9	消防費	項 1	消防費
目 2	非常備消防費				
総合計画 後期 基本計画	基本目標 重点目標 政 策	コ ー ド Ⅲ 3 2	Ⅲ 3 2	項目	人の暮らしを支えるまち 安全な暮らしを守るために 町の安全を守る消防・救急体制の充実
					総合計画 後期基本計画 174 頁

対象	消防団	意図 (対象をどのようにしたいのか)	消防団装備の整備及び団員の処遇改善等の業務を効率的に実施することにより、団員の活動意欲を高め、もって地域防災力の充実強化を図る。
事務事業の概要	条例に基づき、団員への年報酬、出勤に対する費用弁償、退職報償金等を支給する業務及び消防車両・装備等を適切に維持管理する業務並びに公務災害補償、団員の教育研修等の業務を行うもの。		

事務事業の成果指標	単位	25年度実績	26年度実績	27年度			28年度目標	類似団体等の実績値等
				実績	目標	達成度		
消防団員の充足率	%	100	100	98.4	100	98.4%	100	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）						業務評価	重点業務
		指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度目標		
		事業費	単位	25年度決算	26年度決算	27年度決算	28年度予算		
1	消防団報酬支払業務	支給人数	人	537	534	536	—	A	
		事業費	千円	18,668	18,859	18,791	18,867		
2	消防団員福利厚生業務	給付件数	件	6	5	2	—	A	
		事業費	千円	1,590	1,590	1,590	1,590		
3	退職報償金支払業務	支給人数	人	19	21	18	27	A	
		事業費	千円	7,043	8,637	7,957	18,895		
4	消防団災害出勤費用弁償支払業務	延べ出勤人員	人	987	849	767	—	A	
		事業費	千円	6,609	5,783	5,213	4,553		
5	消防団員育成・教育業務	延べ出勤人員	人	2,163	2,337	2,788	—	A	
		事業費	千円	11,332	14,485	13,274	16,741		
6	消防団装備等配備業務	事業費	千円	2,965	3,056	9,299	2,404	A	◎
7	消防団機庫維持管理業務	事業費	千円	313	322	274	372	A	○
8	消防団車両・装備維持管理業務	事業費	千円	1,737	1,685	1,820	1,332	A	○
9	消防団員健康管理業務	受診人数	人	30	28	30	37	A	
		事業費	千円	363	333	330	407		
10	消防出初式運営業務	出勤団員数	人	300	322	331	340	A	
		事業費	千円	162	191	137	165		
11	消防団員広報業務	更新件数	件	20	17	12	15	A	
		事業費	千円	0	0	0	0		
12	消防団研修派遣業務	入校者数	人	7	8	5	8	A	
		事業費	千円	83	84	77	73		
13	消防団員表彰業務	被表彰者数(延べ数)	人	139	118	124	130	A	
		事業費	千円	68	167	44	65		
14	災害補償・賠償補償業務	申請件数	件	0	0	0	—	A	
		事業費	千円	53	53	53	53		
15	消防団員等公務災害補償に関する業務	公務災害件数	件	0	0	0	—	A	
		事業費	千円	1,193	1,193	1,193	1,193		
16	消防団退職報償金掛金業務	退職消防団員数(支給対象者数)	人	19	21	18	—	A	
		事業費	千円	10,176	10,176	10,176	10,176		
17	山口県消防協会負担金	事業費	千円	273	274	276	276	A	
18	周南都市消防連絡協議会業務	会議開催数	回	1	1	1	1	A	
		事業費	千円	6	6	6	6		
19	消防団無線維持管理業務	点検回数	回	2	2	1	—	A	
		利用料台数	台	—	—	127	127		
		事業費	千円	835	851	1,146	161		
20	サイレン吹鳴装置保守管理業務	点検件数	件	12	12	0	—	D	
		事業費	千円	479	326	0	—		
直接事業費の合計（千円）				A	63,948	68,071	71,656	77,329	
職員人件費等		業務量(人工数)		—	—	—			
		人件費(千円)	B	—	—	—			
人件費を含む総事業費(千円)				A+B	63,948	68,071	71,656		
財源内訳		国庫支出金							
		県支出金							
		地方債			1,400	6,800			
		その他		8,187	9,333	8,085			
		一般財源		55,761	57,338	56,771			

- 【業務評価】
- A 現状維持・拡充
  - B 改善
  - C 縮小・抜本的見直し
  - D 休廃止・統合・完了

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
近年多発している大雨による災害や今後発生が懸念されている南海トラフ巨大地震等に対応できる消防防災体制の整備が必要とされているため。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 業務の実施により団員の災害出動や訓練への取り組みがより積極的となり、自主防災組織とのつながりも強まっている。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 消防団にその役割を果たしてもらい上で、必要な各種の業務で構成されており、確実に実施していく必要がある。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 消防団員の処遇及び公務災害補償に係る業務については、消防組織法、条例等の定めにより本市の責任の下に実施すべきものであり、また、装備・資機材の整備及び団員の教育研修等に係る業務並びに福利厚生業務についても、消防団がその任務を果たしていく上で不可欠なものである。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	中倉 秀純	最終評価責任者 (部長名)	小松 和司
--------------------	-------	------------------	-------

## 平成28年度事務事業評価シート（平成27年度決算）

事業コード	1810 - 2 -	作成者氏名	中原 権司	連絡先	0833-74-5601
事務事業名	消防団施設事業	担当課	消防本部総務課		
予算費目	一般会計	款 9	消防費	項 1	消防費
目 3	消防施設費				
総合計画 後期 基本計画	基本目標 重点目標 政策	コード 3 2	項目	人の暮らしを支えるまち 安全な暮らしを守るために まちの安全を守る消防・救急体制の充実	
					総合計画 後期基本計画 174頁

対象	消防団	意図 (対象をどのように したいのか)	消防活動に必要な消防車両及び活動拠点となる消防機庫を整備し、災害発生時の出動体制の万全を図る。
事務事業 の概要	消防車両の計画的更新及び消防機庫の維持管理を行うもの。		

事務事業の成果指標	単位	25年度 実績	26年度 実績	27年度			28年度 目標	類似団体等 の実績値等
				実績	目標	達成度		
車両の更新	台	1	1	1	1	100.0%	1	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)		活動指標・事業費（千円）					業務 評価	重点 業務	
			指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績			28年度目標
			事業費	単位	25年度決算	26年度決算	27年度決算			28年度予算
1	消防車両更新業務	●	車両更新数	台	1	1	1	1	A	◎
			事業費	千円	7,822	5,817	5,908	11,000		
2	消防団施設維持管理業務	●	修繕件数	件	3	22	14	—	A	○
			事業費	千円	367	787	309	474		
3			事業費	千円						
4			事業費	千円						
5			事業費	千円						
6			事業費	千円						
7			事業費	千円						
8			事業費	千円						
9			事業費	千円						
10			事業費	千円						
11			事業費	千円						
12			事業費	千円						
13			事業費	千円						
14			事業費	千円						
15			事業費	千円						
直接事業費の合計（千円） A						8,189	6,604	6,217		11,474
職員人件費等		業務量（人工数）			—	—	—			
		人件費（千円） B			—	—	—			
人件費を含む総事業費（千円） A + B						8,189	6,604	6,217		
財源内訳		国庫支出金								
		県支出金								
		地方債			7,200	1,900	2,000			
		その他								
		一般財源			989	4,704	4,217			

【業務評価】  
A 現状維持・拡充  
B 改善  
C 縮小・抜本的見直し  
D 休廃止・統合・完了

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
車両の更新については、整備計画に基づき今後も地域の実情（地理的条件等）に応じて、車両の形状や装備品の見直しを行い更新を行っていく必要がある。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 平成27年度は、老朽化した第10分団（三輪地区）の消防車両の更新整備を行い、安全確実な消防活動に資するとともに、団員の士気の高揚を図った。また、施設維持管理業務は消防機庫の部分的な修繕等を行い、消防機庫の機能の維持に努めた。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 消防車両の更新整備及び消防機庫の維持管理は、消防団の活動体制を維持するため重要かつ不可欠な業務に位置付けられる。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 本市が消防責任を果たし、市民の安心安全を確保するため、本事務事業の円滑な執行に努めることは極めて妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	中倉 秀純	最終評価責任者 （部長名）	小松 和司
--------------------	-------	------------------	-------

## 平成28年度事務事業評価シート（平成27年度決算）

事業コード	1810 - 3 -	作成者氏名	中原 権司	連絡先	0833-74-5601
事務事業名	消防水利管理事業	担当課	消防本部総務課		
予算費目	一般会計	款 9	消防費	項 1	消防費
目 3	消防施設費				
総合計画 後期 基本計画	基本目標 重点目標 政 策	コ ー ド	Ⅲ 3 2	項 目	人の暮らしを支えるまち 安全な暮らしを守るために まちの安全を守る消防・救急体制の充実
					総合計画 後期基本計画 174 頁

対象	市民	意図 (対象をどのように したいのか)	消防水利の充実を図ることで、迅速な消防活動が可能となり、安心して暮らせるまちづくりに寄与する。
事務事業 の概要	整備計画に基づき、消火活動に必要な消火栓又は防火水槽の設置及び維持管理を行う。		

事務事業の成果指標	単位	25年度 実績	26年度 実績	27年度			28年度 目標	類似団体等 の実績値等
				実績	目標	達成度		
消火栓の修繕	基	21	21	22	14	157.1%	11	
防火水槽の設置	基	1	2	0	—	—	2	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	●	活動指標・事業費（千円）					業務 評価	重点 業務	
			指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績			28年度目標
			事業費	単位	25年度決算	26年度決算	27年度決算			28年度予算
1	消火栓新設業務	●	設置数	基	2	1	0	1	A	
			事業費	千円	853	940	0	111		
2	防火水槽設置業務	●	設置数	基	1	2	0	2	A	○
			事業費	千円	5,355	14,064	0	0		
3	消火栓修繕業務	●	修繕箇所	基	21	21	22	11	A	◎
			事業費	千円	8,418	7,895	9,888	6,456		
4	消火栓・防火水槽標識修繕業務	●	修繕件数	件	140	94	60	30	A	
			事業費	千円	569	722	836	991		
5	消火栓・防火水槽路面標示業務	●	標示箇所	件	0	50	20	20	A	
			事業費	千円	0	296	130	150		
6	新設消火栓標識設置業務	●	設置数	基	0	0	0	0	A	
			事業費	千円	0	0	0	0		
7	防火水槽修繕業務	●	修繕件数	基	0	0	2	1	A	
			事業費	千円	0	0	432	388		
8			事業費	千円						
9			事業費	千円						
10			事業費	千円						
11			事業費	千円						
12			事業費	千円						
13			事業費	千円						
14			事業費	千円						
15			事業費	千円						
直接事業費の合計（千円）					A	15,195	23,917	11,286	8,096	
職員人件費等		業務量（人工数）		—	—	—				
		人件費（千円）		B	—	—	—			
人件費を含む総事業費（千円）					A + B	15,195	23,917	11,286		
財源内訳		国庫支出金		2,618	5,236					
		県支出金								
		地方債		2,300	4,700					
		その他								
		一般財源		10,277	13,981	11,286				

【業務評価】  
A 現状維持・拡充  
B 改善  
C 縮小・抜本的見直し  
D 休廃止・統合・完了

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
消火栓の修繕については、毎年、水道局が行う配水管布設工事と併せて実施しており、消火栓単独の修繕を行うのに比べ経費を抑えることができる。防火水槽については、整備計画に基づき国庫補助の活用に努めている。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 水道局が行う配水管布設工事に併せて消火栓の修繕を行うことで、経費節減に繋がるとともに、消火活動を円滑に行えるようになった。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 常時使用可能な消火栓及び防火水槽を設置し、適切に維持管理することは消防活動上有効である。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 火災時の迅速な消火活動を行うため、消防水利を設置し維持管理することは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	中倉 秀純	最終評価責任者 （部長名）	小松 和司
--------------------	-------	------------------	-------

## 平成28年度事務事業評価シート（平成27年度決算）

事業コード	810 - 1 -	作成者氏名	周田 義之	連絡先	0833-72-1400
事務事業名	水防事業	担当課	道路河川課		
予算費目	一般会計	款 9	消防費	項 1	消防費
				目 4	水防費
総合計画 後期 基本計画	基本目標 重点目標 政策	コード 3 1	項目 III 1	人の暮らしを支えるまち 安全な暮らしを守るために 想定外をも想定した地域防災対策の推進	
					総合計画 後期基本計画 170 頁

対象	市民	意図 (対象をどのようにしたいのか)	洪水や高潮などの水災による被害を最小限に抑える。
事務事業の概要	光地域防災計画に定められている水防資材の備蓄を確保する。出水期前には職員で土嚢を作成する。水災が予想される場合など、必要に応じて希望する市民へ土嚢を支給する。		

事務事業の成果指標	単位	25年度実績	26年度実績	27年度			28年度目標	類似団体等の実績値等
				実績	目標	達成度		

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）						業務評価	重点業務
		指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度目標		
		事業費	単位	25年度決算	26年度決算	27年度決算	28年度予算		
1	水防業務	土嚢作成		400	400	400	400	A	◎
		事業費	千円	87	210	321	381		
2		事業費	千円						
3		事業費	千円						
4		事業費	千円						
5		事業費	千円						
6		事業費	千円						
7		事業費	千円						
8		事業費	千円						
9		事業費	千円						
10		事業費	千円						
11		事業費	千円						
12		事業費	千円						
13		事業費	千円						
14		事業費	千円						
15		事業費	千円						
直接事業費の合計（千円） A				87	210	321	381		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.25人	0.25人	0.25人			
		人件費（千円） B		1,761	1,789	1,810			
人件費を含む総事業費（千円） A + B				1,848	1,999	2,131			
財源内訳		国庫支出金							
		県支出金							
		地方債							
		その他							
		一般財源			1,848	1,999	2,131		

【業務評価】  
A 現状維持・拡充  
B 改善  
C 縮小・抜本的見直し  
D 休廃止・統合・完了

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
この事業は水防事業のみで構成されているが、事業を進めるうえで必要であるため。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 土嚢等災害用の資材を常備しておくものであり、非常時において迅速な対応ができる。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 水防資材の備蓄を継続して行い、非常時において迅速な対応ができることから、業務の構成は有効と判断できる。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 道路や河川を管理していることから、実施主体であることは妥当である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	田村 格平	最終評価責任者 （部長名）	岡田 新市
--------------------	-------	------------------	-------